

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会		
事務局 (担当課)		ゼロカーボン推進課 電話042-769-8240(直通)		
開催日時		令和4年12月7日(水) 14時00分～16時30分		
開催場所		オンラインとの併用開催 (現地会場:エコパークさがみはら 2階 学習室)		
出席者	委員	18人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	9人(脱炭素社会・資源循環推進担当部長、ゼロカーボン推進課長、廃棄物政策課長、水みどり環境課長、環境保全課長ほか)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 会長・副会長選出 2 審議 令和4年度版さがみはらの環境(相模原市環境基本計画年次報告書)(令和3年度報告)(案)について 3 その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 会長・副会長選出

会長・副会長の選出について互選を行い、会長は田中委員、副会長は山田委員が選出された。

2 審議

令和4年度版さがみはらの環境(相模原市環境基本計画年次報告書)(令和3年度報告)(案)について、資料2に基づき、事務局より説明を行った。

(佐藤委員) 森林の整備状況については、市は協力協約という数字のみを計上しているが、相模原市の整備状況は、ほぼ神奈川県環境保全税で運営されている。協力協約は相模原市が補助金2割を足して運営しているが、補助率としては全体の17%ぐらいである。市の地球温暖化対策を実行していく上で、森林整備に関する内容は重要であるため、市直営の事業だけでなく、全事業の整備状況を掲載すべきではないかと考えているが、110ページの組織体制を見ると、経済部の箇所津久井地域環境課はあるものの、森林政策課の記載がないため、情報が反映されていないのだろうかと推測している。環境基本計画において森林の役割は大きいと、森林政策課も組織体制に加えて森林整備状況を共有してもらいたい。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 森林政策課と、全く連携が取れていないということではない。例えば基本目標1の中の「いきいきとした森林の再生」、それから、基本目標3の緑地面積等々のところで、森林政策課とも連携しながら、さがみはらの環境を作成している。

(大河内委員) 今回初めて基本目標の達成の目安となる指標をマークで表すということで、基準値を少しでも上回っていれば笑顔のマーク、下回れば残念なマークだと理解したが、2段階で良いのかというところの議論はしていなかったように感じる。例えば、基準値に対して少しは上回っているが、中間目標と比較すると、全く目標値に届きそうにない場合も笑顔のマークで良いのか、このあたりについても議論をしていなかった。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 事務局として、基準値と比較した結果についてマークの整理をした。例えば、昨年度と比較して数値が下回っている場合でも、中間目標を達成している状況であれば笑顔のマーク、昨年度と比較して、令和3年度の実績が良い結果であったとしても、基準値を下回っている場

合は、残念なマークとしている。

(田中会長) 今笑顔のマークと残念なマークの2つのみであるが、この2つに当てはまらないような、ほぼ現状維持というような結果もあるかと思う。ただ、マークをいくつも作ると分かりにくくなるため、まずは、この2段階の区分でスタートするのがよいかと考える。さらにそれを3段階にするなどは、今後検討していく余地がある。

マークの考え方や見方について、「さがみはらの環境」の目次の次、あるいは裏表紙に明記しておくことが必要ではないか。

(斎藤委員) さがみはらの環境の記載の中で、同一の事業は「再掲」としているが、記載のないものも見受けられる。全体を通して、どういう風に整理しているのか。基本目標が異なる場合でも、同じ内容であれば、再掲と記載した方が良いのではないかと感じる。読む側からすると、記載されている方が、親切ではないかと感じた。

(田中会長) 再掲と記載されていると、読み手側にとって分かりやすい。一方で、再掲とだけ記載して、内容を省略する方法もある。そうすると、記載されているページまで戻らなければならない不便さはあるかもしれないが、ページを追えるように書いてあれば良いのではないかと考える。記載方法については事務局に任せるが、再掲のものは全て再掲と記載するべきと私も考える。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 再掲の考え方については、同一の基本目標の中で再掲としており、基本目標をまたぐ場合は、再掲と記載しない整理としている。委員からのご意見に合わせて修正したい。

(牛尾委員) 5 ページの「地域循環共生都市さがみはら」のイメージ図について、中山間部と都市部の矢印が両方にかかっているが、この矢印が重要だと感じる。個別の目標の中に、森林の活用等の様々な取組について記載されているが、この視点の重要性を市民の方々が認識して、行動を起こせるような状態を作っていくことが大事。

(田中会長) 5 ページのイメージ図は、環境基本計画から抜粋して転用しているため、これを改変するなどの工夫は難しい。

(南部委員) 6 ページの「SDGs のゴールと環境基本の施策の関連性」の部分で、基本目標 5 の「環境に配慮したライフスタイルの推進」に、ゴール 11 番の「住み続けられるまちづくりを」というのが含まれていないが、密接に関わっていると思う。基本目標 5 に追加してもらえると良いと考える。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) SDGs のゴールについては、第 3 次相模原市環境基本計画で定めたものを、改めてここに掲載しているもののため、委員からのご意見については、中間改定の中で、そうした議論をしていくものと考えている。

(古屋委員) 18 ページ、施策 2 の今後の方向性について、2 段落目に「エネルギー・マネジメント・システム」と記載されているが「環境マネジメントシステム」という表現の方がよいのではないかと。

(田中会長) 補足すると、エネルギー・マネジメント・システムの話だが、エコアクション 21 や環境 ISO は環境マネジメントシステムであることから、それを推進していくということであれば「環境マネジメントシステム」と表記する方がより適切ではないかと。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) ご指摘のとおり修正する。

(大河内委員) 30 ページの今後の方向性の 3 行目について「災害時にも必要となるエネルギーを迅速に共有できる仕組みづくりを進めていきます」と記載されているが、現在の環境基本計画では事業としては入っておらず、施策 5 の中にも入っていない。今後の方向性にその文言が突然出てくると、唐突感があるため、中間改定で、何か見直しをして事業を始めるということであれば、そのことについて一言あった方が繋がりが良いのではと思った。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 「災害時にも必要となるエネルギーを迅速に共有できる仕組みづくりを進めていきます」と記載した部分について、具体的な事業が入っていないとご指摘いただいたが、13 ページから始まる施策 1 の「再生可能エネルギーの利用促進」に記載されている、再生可能エネルギーの導入等々が結果として、災害時にも活用することができる、そうしたものになるという理解でいるため、具体的に施策 5 に記載をしていない。

(大河内委員) 分散型エネルギーに関する内容が施策 5 にあることは分かっているが「連携しながら、実施していく」等の文言がなく、施策 5 にいきなり出てくるのが、違和感がある。

(田中会長) 今後の方向性のため、今まではこうしてきたけど、さらにこういうことを今後追加していくという点からは、新規の内容がここに記載されていても、おかしくはないかと思っていたが、委員のご指摘は理解した。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 記載方法について、検討する。

(宍戸委員) 13 ページ、小水力発電の導入というのは、どういう規模を意味するのか。

(ゼロカーボン推進課 逸見総括副主幹) 小水力については、環境省等においても、厳密な定義はが、出力 1000 キロワット以下の比較的小規模な発電設備を称して、小水力発電と呼んでいることが多い。

(小松委員) 15 ページの今後の方向性には、再生可能エネルギーが、太陽光発電に特化してるような記述になっている。一方で、小水力発電など、地域によってそういった適切な再生可能エネルギーの領域があると思うが、地中熱の利活用はできないのだろうか。地中熱エネルギーという、新たな自然エネルギーの利活用について、今後の方向性には、そのような調査を行うといったところも触れといた方が、良いのではないかと考える。

(田中会長) 地中熱は、市のポテンシャル調査結果で、ポテンシャルとしては高いことが記載されていたと記憶している。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) ポテンシャルにある地中熱に関してだが、今後の方向性の中に、地中熱の利用というようなことを記載するのは、まだ議論が進んでおらず、現時点では文章にしていくということが難しい。

(斎藤委員) 14 ページに「市民共同発電所の設置促進」という項目があるが、取組状況として、新規の設置実績はないと書かれている。簡単にできるものではないとは思いますが、支援をしなかったからできなかったのか。あるいはどのような支援をした結果、結局できなかったのか。理由まで記載した方が良い。

(田中会長) 今のご意見に関連して、全体にわたって言えることであるが、例えば「新規の施設設置実績はありませんでした。」といった数値で記載している部分や、「協働により設置した太陽光発電設備を利用して、環境教育などを実施しました。」と記載する場合、その回数や人数が記載されていれば活発に活動したという実績が分かる。

(ゼロカーボン推進課長) 市として、市民協働推進課とゼロカーボン推進課で、自治会館に設置した場合に 2 分の 1 の補助を交付しているが、令和 3 年度については予定はあったものの、最終的には設置しないこととなった。実績についてはより具体的に書くように努める。

(古屋委員) 41 ページ「事業系ごみの搬入物検査の強化、事業系ごみのマニフェスト制度の導入」とあるが、この、マニフェスト制度を導入するのは、事業系一般廃棄物について、内容を細かく記すといったことを検討しているのか。

(大河内委員) 施策 1・施策 2、両方の今後の方向性に関わるのかと思うが、プラスチック資源循環法が令和 4 年から始まっているため、それに向けた情報整理や、検討を始めるという文言はどこかにいれるべきではないか。施策 2 の適正処理

の方が良いのではないかと思うが、ごみの排出削減にもかかってくるため、どちらに入れるかは、検討してもらいたい。

(廃棄物政策課長) プラスチック資源循環法については、ご意見のとおり本年の 4 月 1 日から施行されたところである。今後、具体的な対応等については検討を進めていくことになるが、記載をしていないため、内容や箇所について検討したい。

また、41 ページに記載のある事業系一般廃棄物のマニフェスト制度の導入については、減量化に向けた一つの施策であると考えており、廃棄物の種類や量を把握できるマニフェストの導入に関し検討をしているところである。

(脱炭素社会・資源循環推進担当部長) 廃棄物政策課長から 35 ページで、プラスチック資源循環法について明記すると話をしたが、43 ページの今後の方向性でも、法施行したこともあるため、明記していきたい。

(大河内委員) 廃棄物減量等の審議会の方でも、収集運搬体制等の検討は始まっているかと思うので、そのあたりを含めて記載した方が良い。

(佐藤委員) 75 ページ、また 66 ページに記載されている高度処理型浄化槽の整備率が 30.4%となっているが、これは累計値か。また、総数だとどのくらいのパーセンテージとなるかを知りたい。

(水みどり環境課長) 公共下水道の高度処理型浄化槽の設置基数ということで、整備状況については、下水道部門の所管のため、詳しいところまでは把握していないが、この 85 基というのは、この令和 3 年度に申請があったものとして整理している。累計については、確認をしてお伝えする。

(斎藤委員) 50 ページ 1 行目、「「緑地面積」については、生産緑地地区や保存樹林等が減少したものの、相模原スポーツ・レクリエーションパークの整備等により、基準値を維持しました。」と記載されている箇所について、区分としては公園も含まれるのかもしれないが、実際の水と緑、生物多様性の保全に寄与しているとは思えない。さらに、桜の木を植林してあると聞いているが、生物多様性には、全く配慮せずに植林していると感じている。現状のところには、この状態で達成したというように記載して良いのか、それから「実質」などといった注釈が必要ではないか。

また、65 ページの今後の方向性では「緑地面積の維持に取り組みます」と記載されているが、維持では足りないのではないか。もっと増やしていくといった方向性にしなければいけないのではないか。

(水みどり環境課長) 50 ページに記載している緑地面積は、公園面積も含めてカウントしている。また、桜の植栽についてご指摘があったが、生物多様性の部分

は考えていかなければならない部分のため、整備状況については公園整備の所管とよく連携して、担当間で調整させていただきたい。

また、65 ページの今後の方向性については、緑地面積の現状維持について、減っていく部分が非常に多い中で、現状維持をしていくことが大事だと捉えていたが、ご指摘の通り、緑化を推進することが非常に大事なため、その部分のニュアンスを加えた文言にすることを検討させていただきたい。

(田中会長) 少し補足させていただく。緑地面積の件でご指摘があったが、これはスポーツレクリエーションパークは緑地に当たるのか、という問題意識のもとでの指摘だったかと思う。市の統計上、区分としては、公園緑地を一体として見て緑地面積として把握している。公園を整備すれば、それは一見例えば遊具が置いてあったり、あるいはスポーツ広場のような形態であっても、一応その緑地面積としてカウントされる。こうした区分の仕方は、統計上ということで、市行政に限らず、国全体の話でもある。実感とそぐわないところもあるかもしれないが、委員のご指摘はきちんとその生き物なり生物多様性の面からその緑地を保全していくことが大事だという、そういう問題意識だと理解している。市には、統計上の話はともかくとして、その趣旨はぜひ踏まえてもらいたい。

(増田委員) 52 ページに外来生物に関する記載があるが、関東地方環境事務所で外来生物を担当している野生生物課から、特定外来生物の「クリハラリス」という種が横浜北部から分布を広げていると聞いており、相模原市にも近づいている話もあるため、近隣自治体と連携して情報交換を行うなどご留意いただきたい。

(水みどり環境課長) クリハラリスの話は我々もよく承知している。市内ではまだ確認されていないが、その可能性も非常に高いということで、情報を収集しながら把握に努めていきたい。

(小嶋委員) 旧青根中学校等の財産があり、環境教育等で利用できると思うが、そういったところの活用はないのか。62 ページの津久井や城山の公園整備や 63 ページのレクリエーションパークについての記載はされているが、青根地区でそのような活用する予定があるか聞きたい。

(田中会長) 60 ページに、こういった地域との連携による里山の保全について実施している。それから、緑地を計画的に保全していくことも行っている。

(水みどり環境課長) 旧青野中学校の跡地利用については、市の方でも多くの部署が活用について検討しているため、いただいたご意見を踏まえながら、活用に向けて取り組んでいきたいと考えている。

(山田副会長) 71 ページの「公共用水域及び地下水の環境基準を達成した地点の割合 (%)」の令和 3 年度実績が 75%となっている箇所について。残念なマークとなっているが、次のページの現状には、その理由として「pH や大腸菌数などが環境基準を達しなかったから」と記載されている。その原因が分かっているのであれば、理由が書いてあると、人的なものの影響ではないというのが分かるため、良いのではないかと感じた。

(環境保全課長) 公共用水域等の生活環境項目の一部が達成しなかった原因については、pH や大腸菌は、気候の変化に影響を受けている一面がある。委員の指摘のとおり、文書表現を変更したい。

(田中会長) もし、基準未達成の原因が分かっているのであれば、書いておいた方が今後もよろしいかと思う。

(増田委員) 基本目標 5 については、普及啓発の関係などで、SDG s を活用して色々な取組をしている印象を受けた。相模原市は SDG s 未来都市に選定されていることもあり、普及啓発以外にも何かプロジェクト的なものを予定されていれば、例えばこの環境基本計画の推進にも関わっているものがあれば教えてほしい。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) SDG s 未来都市として、環境に限らず様々な取組や展開をしているところだが、質問いただいた内容については、所管課に確認して、後日お答えする。

(斎藤委員) 85 ページ、「市民ファンドゆめの芽」の取組状況について、環境保全活動を行う団体を含む市民活動団体に対し、令和 3 年度実施事業への助成を行ったと書いてあるが、環境保全活動を行う団体のみについて記載した方が、さがみはらの環境にはふさわしいかと思うが、いかがか。又は、全体のうち、環境団体の交付はいくつだったかという記載にしても良いかと考える。検討してもらいたい。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) いただいた意見をもとに、記載内容について検討したい。

(田中会長) 18 団体はおそらく全体の支援数と思われるため、その中で環境分野が何団体あったかということを知りたい。

(田中会長) それでは全体にわたり、言いもらした点やこれまでの事務局の回答も含めて再度確認したい点について、いかがか。

(牛尾委員) 19 ページの言葉の表現について。自転車駐車場と表記されているが、自転車の場合は「駐輪場」ではないのか。「駐車場」と記載すると、車だと思い

違いがある可能性があるように感じた。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹)「自転車駐車場」の表記については、第2次相模原市地球温暖化対策計画の記載に合わせている。

(木村委員) 基本目標1、13ページで小水力について記載されていたが、山梨県都留市では、小水力で発電した電力を市役所庁舎の電力として使用しており、見学したことがある。そこで考えたのだが、家庭から出るごみの回収を、市は交通量の多い日中に行うのではなく、夜間にできないのか。是非、検討していただきたい。

(廃棄物政策課長) ごみの収集を夜間にできないかのご意見をいただいたところであるが、本市でも、駅の周辺で夜間収集を行っている箇所もある。メリットがある一方で、夜間のため、騒音や経費の問題、また暗い中での作業となり危険が伴うなどといったこともある。貴重なご意見として、事務局の方で承りたい。

(熊谷委員) 52～53ページに記載されている内容について。イノシシやサルなど、有害鳥獣対策事業に関する補助を交付いただいているが、特にサルについては、県の許可がないと捕獲できない。農作物を荒らして住民の方が非常に困っている。東京都や山梨県はサルの捕獲許可が出ているが、神奈川県は、県の許可が必要であるため、農耕地を放棄する方が、多くなっている。対策を県に要望していただきたい。

(水みどり環境課長) 所管は緑区の政策課であるが、所管部署と今後の対策とともに、改めて県の方に、許可申請の簡略化や、対策が取れるように要望していきたい。

(高田委員) 30ページ、基本目標1の施策5「気候変動適応策の推進」の具体的事業のうち「大気、水質等のモニタリング」と記載されているが、適応策という中での位置付けが少しわかりにくいと感じた。

(ゼロカーボン推進課 逸見総括副主幹)「大気、水質等のモニタリング」については、適応策の推進に必要な基盤的対策ということで、考え方としては気候変動の将来予測に不確実性があるために、市の基本水質等のデータを継続的に測定しているものである。

(高田委員) そのあたりの説明を加えた方が、報告書として分かりやすくなると感じた。

(望月委員) 若い世代にどう環境について、視野を広げてもらうのが学校現場で

問題になる。

(田中会長) 環境教育・環境学習は、是非、学校現場でもお願いしたい。

(田中会長) 今日審議した「さがみはらの環境」だが、この後の段取りについては、本日のご意見等を反映するという形にして、その内容の調整については、会長に一任していただきたい。なお、報告書の116ページに、12月7日が第1回で、第2回が空欄となっているが、第2回開催はありうるのか。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 第2回を現時点で予定しているということではない。

(田中会長) 117ページ以降には、主にどのような意見が出たかということ、箇条書き等で記載する。なお、数値の確認や質問で、件数を教えて欲しいという質問等の内容はここでは省略をさせていただく。いずれにしても、本日いただいたご意見はここに記載をして、この内容について審議確認をした、チェックをしたという基本的な指摘は、残しておく形にしたい。ご了承いただければそういう形で進めさせていただきたいが、よろしいか。

(各委員) 異議なし。

(田中会長) 異議がないということで、私と事務局で調整させていただきたい。

それでは、「さがみはらの環境」についてのご審議はここまでとさせていただきます。「その他」ということで、事務局から説明をお願いします。

3 その他

事務局より、来年度に予定している環境基本計画中間改定に関する説明を行った。

(ゼロカーボン推進課 石川総括副主幹) 来年度の本審議会の件について、さがみはらの環境の説明の中でも少し触れたが、来年度、第3次環境基本計画の中間改定を予定している。また、基本目標1~3の個別計画(第2次相模原市地球温暖化対策計画・第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画・第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略)の中間改定を予定しているが、これらの個別計画については各審議会で審議する予定である。

環境基本計画の中間改定にあたっては、環境基本計画の基本目標や目指す姿、いわゆる柱となるような部分では、大きな改定を行う必要はないため、本審議会は、諮問答申という手続きは行わないが、来年度の環境審議会では、中間改定についてご審議いただくことを予定している。来年度については、複数回の開催を予定しているため、ご協力いただきたい。

(田中会長) 来年度は、環境基本計画の中間見直しを行いたいというのが事務局の

説明であった。それに合わせて、審議会での諮問答申という形式はとらないけれども、審議をお願いしたい。したがって、何回か審議会を重ねる中で、内容についての確認、そして修正すべき点を修正していく。そういう方向で取りまとめたいというのが、事務局の主旨である。来年度についてはそのような予定が入るということを含んでおいていただければと思う。

それでは、予定案件は以上となるがよろしいか。

(各委員)

意見なし。

以 上

環境審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	一色 正男	神奈川工科大学 研究推進機構 特命教授		出席 (Zoom)
2	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)		出席 (Zoom)
3	川久保 俊	法政大学 デザイン工学部 教授		欠席
4	高田 久美子	麻布大学 生命・環境科学部 特任助教		出席 (現地)
5	田中 充	法政大学 名誉教授 法政大学地域研究センター客員教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)	会 長	出席 (現地)
6	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		出席 (現地)
7	山田 とし子	相模女子大学 栄養科学部 教授	副会長	出席 (Zoom)
8	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		出席 (Zoom)
9	木村 郁子	さがみはら消費者の会 委員		出席 (現地)
10	熊谷 弘	相模原市自治会連合会 理事		出席 (現地)
11	小松 秀一	相模原の環境をよくする会 会長		出席 (現地)
12	斎藤 奈美	(特非) and Advance 副代表理事		出席 (Zoom)
13	佐藤 治男	さがみはら津久井森林組合 代表理事組合長		出席 (Zoom)
14	選任中	相模原商工会議所		欠席
15	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席 (Zoom)
16	望月 はる美	相模原市立小中学校校長会 委員		出席 (Zoom)

17	増田 大美	(環境省)関東地方環境事務所 環境対策課長		出席 (Zoom)
18	牛尾 良一	中央区在住		出席 (現地)
19	小嶋 雅司	中央区在住		出席 (現地)
20	宍戸 和夫	中央区在住		出席 (Zoom)